

私は、この二日間でたくさんのことを学び経験しました。普段できないような貴重な体験をたくさんし、とても充実した二日間でした。1日目。東京に到着してすぐに、ディレクトフォースということで新日鐵住金株式会社さんを訪問しました。まず、新日鐵住金株式会社は素材メーカーであるそうです。私はこの言葉を初めて聞いたのですが、素材メーカーとは、自動車メーカーなど多くのメーカーに素材を提供するメーカーのことを言うそうです。本社のビルはとても大きく、中に入ってみると、外見以上に広くきれいで、また、セキュリティーも厳重になっていて驚きました。新日鐵住金株式会社さんは主に鉄を生産している会社ですが、世界で生産量が2位という素晴らしい実績を持っている会社だけあって、貫禄があると思いました。社員の方々も、感じが良く、話などとても聞きやすかったです。ディレクトフォースでは、最初にビデオを見ました。そこでは鉄の現状である、先進国以外の国で鉄の需要が増加していることなどが説明されました。また、世界の中で、生産量の1位が中国、2位が日本となっていますが、1位と2位の差はかなり激しく、鉄の生産は中国に偏っている問題もあるということです。これからの社会において、このような問題を解決していかなければならないのは、私達若者です。そのため、1人1人が現状や、それを解決する方法について考える必要があると、ここで学びました。また、同じ会社でもパイプ営業や技術職など違う仕事内容と目的を持った分野がたくさんあるということを知って驚きました。新日鐵住金株式会社さんの社員の方々には、あいさつの時などに「ご安全に。」と言うそうです。それを言う社員の方々はとてもかっこよく感じ、自分も将来仕事をこなせる立派な大人になりたいと思いました。さらに、会社の認知度を上げるために、工場見学を行っているとのことでした。小学生を中心とした年間14万人が工場見学をしているそうで、これは、私達若い世代に、今社会で起きている問題、必要なことについてについて気づかせる良い機会だと思います。これはぜひ続けていってほしいです。また、機会があれば行ってみたいと思います。

1日目の午後は企業大学訪問ということで順天堂大学医学部教授である天野篤教授の元を訪問しました。私は将来医者になりたいと思っているので、有名な天野教授のお話が聞けると決まったときは、とても嬉しかったです。本も何冊か出版していて、以前に何冊か読んだことがあり、挫折や苦労を重ねながらも自分の信念を貫き通したすごい方だと思っていたいました。緊張しながらも実際にお会いしてみると、とても優しくそうで緊張もすぐにほぐれました。まず天野教授は、医師に必要なことをお話してくださいました。それは、自分が他の誰よりも病気の解明などができる医者になるなど、どういう医者になりたいか強い意志を持つことであるそうです。そのために、教授が日頃から注意して行っていることは、「気づいたことはそのままにしない。」「思い立ったらすぐ行動する。」「身近に目標を作る。」などだとおっしゃっていました。また、他人のために少し我慢することは、リーダーシップにも繋がることだそうです。私は医者になりたいため、このことを少し気にかけて生活していこうと思います。私達が今からでもできることはこれだけではないそうです。身近で簡単にできることとして、本をたくさん読むという方法があるとお話してくださいました。教授は、私達におすすめの本も紹介してくださいました。その本を今度、図書館などで探し、読んでみたいです。天野教授と言えば、天皇陛下の手術を含め、これまで6000例以上の手術を行い、その上成功率が98%である方です。しかし、成功率が98%というのは、普通の手術の成功率が99.6%というのと、それよりも死亡率が8割高い緊急手術の成功率が93~94%というのを平均した値であると聞き、改めて天野教授の偉大さを痛感させられました。手術の他に教授は本や論文をお書きになっています。その理由を聞いて私は驚きました。教授が本や論文をお書きになる理由は2つあり、1つは、多くの人に読まれ参考にされるためで、もう1つは、自分を検証し、反省するためだそうです。自分の本や論文をそこまで活用するのはすごいと思いました。また、成功の裏側には失敗もあるのではないかと思います。今までで1番苦労したことは何かを尋ねてみました。すると教授は、誘惑に負けて、日本大学医学部に入るまでに3年浪人したことだとおっしゃっていました。その失敗から教授が学んだ、「チャンスはみんな公平にあるもので、それをものにすることがどうかで成功が決まる。」ということを私達に教えてくださいました。私はこれをい

つでも忘れないようにしたいと思います。1日にほぼ2件以上の手術を行う天野教授は、手術を行う際に成功させるため、プレッシャーに打ち勝つ努力をしているそうです。まず、1番大切なことは、経験することであるそうです。私は、部活でバドミントン部に所属しているのですが、試合でも経験値が大切になってくるので、天野教授の言葉に強く共感しました。それに加え、手術前に緊張して、あたふたしても仕方がないので、居直ることも大切だとおっしゃっていました。そのような心の強さがわたしには足りないと思うので、部活などで養っていきたいです。今年で60歳を迎えられた天野教授にこれからの医学について期待することを伺ってみたところ、いくつかあるそうで、その1つとして「治らない病気が治るようになること。」を期待しているそうです。例えば、がんなど、完全に治ることが難しい病気でも、将来進歩した医療で治せることを望んでいるとおっしゃっていました。また、現在の北米の方の、お金を出せばよりよい治療を受けられるという現状を失くすこと、どんなに発展しても医療が万能じゃないことを1人1人が認識することを望んでいると聞きました。そして、最後の1つは、確実に救える命は救うということです。例えば、病気になっても、よりひどい症状が出る前に治すということなどです。それに加えて、病気になる前に予防する予防医学というものが将来発展していくことも望んでいるそうです。その期待に応えられるよう頑張りたいと思います。私は天野教授にお話を伺ったことでこれからの目標を再度確認し、それを達成するために、今から何をすべきか、努力をする大切さについて考えさせられました。

ホテルに入った私達は、夕食を食べた後、東京大学院生・学生（仙台二高 OBOG）による懇談会がありました。貴重なお話を聞くことができました。私が中でも驚いたことは、大学を3年生と4年生の間に休み、企業を立ち上げたという話です。またその方は、企業を立ち上げた上に、海外進出を行っているとおっしゃっていました。そんなに若くして偉業を成し遂げたことに感銘を受けました。当時の二高の行事の様子などについても詳しく話してくれて、面白い話もたくさん聞くことができました。そして、その時の勉強の様子や仕方、大学の志望理由、受験勉強など濃い話もしてくれ、とても参考になりました。怖い先輩が来るのかと思っていたら、優しく面白い先輩ばかりで、勉強面などでの確かなアドバイスもしてくれて良い機会となりました。また、自分の生活や自分自身などを見つめ直すことができました。今回の東大研修では、人生について深く考えさせられるものでした。自分にとってプラスになることはしっかり吸収して自分のものにし、これがだめだったなどマイナス面で気付かされたところは、自分と向き合い、1つ1つ生活の中で直していくようにしたいと思います。最後に、この東大研修を行うにあたって協力してくださったみなさん、企画・運営をしてくださった先生方に感謝したいです。ありがとうございました。